

## 尺八を使った音楽づくりワークショップ

ー みんなでヘテロフォニー ー

山口賢治 (現代邦楽)

### 主旨

小・中学校の学習指導要領に和楽器に触れることと、音楽づくり（小学校）や創作（中学校）を実施することが書かれています。本学では、その教育目標を実現すべく音楽づくりの手法を取り入れた邦楽ワークショップの研究や実践とワークショップリーダーの育成に力を入れており、近年その成果が現れております。本ワークショップでは代表的な邦楽器のひとつである尺八による音楽づくりワークショップの一例を示します。尺八や尺八音楽を活用した音楽づくりワークショップを通じて、日本の伝統音楽の特質のひとつである音の曲線を多用した音楽や、複数の音の曲線の絡み合いによるヘテロフォニー音楽について体験します。

### 目的

- 1、尺八を体験し知ってもらう。
- 2、尺八古典本曲に代表されるような日本の伝統音楽における微分音程的なピッチ変化や、音の自在な曲線的動きを用いた音楽を知ってもらう。
- 3、声明等で聞かれる日本の伝統音楽における合奏の重要な原理であるヘテロフォニーについて知ってもらう。
- 4、現代の作曲家による邦楽器の作品例を試聴し、日本の伝統音楽が育んできたこれらの要素が現代音楽作品においても活かされていることを紹介し、音楽創作のヒントにしてもらう。

### 実施プログラム

- 1、導入、主旨説明、アイスブレイク。
- 2、尺八の基本奏法の説明と実践（発音原理と方法/構え方/運指）。
- 3、尺八における種々のポルタメント奏法（スリ、ナヤシ、ユリ等）の説明と見本演奏（「越後三谷」「鹿の遠音」）。
- 4、日本の伝統音楽における音の線の重なりによるヘテロフォニー音楽の紹介（声明）。
- 5、声や尺八による曲線とその重なりによる音楽の試行。
- 6、現代音楽作品の応用例の紹介。
- 7、ヘテロフォニーの原理に基づく尺八（声、その他の楽器）による創作、発表、評価。
- 8、まとめ。

### 期待される効果

- 1、誰でも日本の伝統音楽や伝統楽器の特質の一つであるヘテロフォニー音楽を体験的に知ることができる。
- 2、普段耳慣れた音楽の構成要素(旋律、和声、リズム)とは異なる音楽の組み立てや有り様を知ることができる。
- 3、数名の少人数から大人数にまで活用でき、ヴァイオリンやトロンボーン等、容易にポルタメント奏法が可能な楽器であれば、邦楽器でなくても応用ができる。